



**キョ太郎**  
浜坂高朗

世界の三大ガソリン計量メーカー  
**TATSUNO**



**経営部会・時事講演会**

石油産業界の状況は今、大きな転機を迎えているように見える。需要は2011年以降、世界的に減少していったが、今年は前年比を上回った。このうちOPECの原油生産量は全世界規模の3割だが、注目すべきは米産油国がその間に生産量を倍増したこと。米産油国の...

**国際政治絡み不透明 G輸入は月間20万キロ**

原油価格の急騰は、今年、透視の目が強い。平均日量100万キロペーで増産している。直近では、燃料油内需が6年ぶりにOPECの減産ペースを凌ぐ。内需は、ラン・ベネエラ情勢など国際情勢が原油上買を促している。今後5年間は、増産や米中経済摩擦などによる原油価格の急騰は避けられず、先行きは極めて不透明な状況にある。

**石油産業界をめぐる最近の動き 橋爪吉博氏**

全石連経営部会(喜多村利秀部会長)は10日、日本エネルギー経済研究所・石油情報センターの橋爪吉博事務局長を講師に招き、時事講演会を開いた。「石油産業界をめぐる最近の動き」と題した講演で、橋爪氏は国際石油市場、国内石油製品動向、次世代自動車と石油供給をテーマに解説し、原油動向について「直近では産油国の協調減産が続くものの、米産油国に政治的圧力がかかっている」とし、今後不透明な情勢が続く見通しを示した。橋爪氏の講演要旨は以下の通り。

**国際政治絡み不透明 G輸入は月間20万キロ**

原油価格の急騰は、今年、透視の目が強い。平均日量100万キロペーで増産している。直近では、燃料油内需が6年ぶりにOPECの減産ペースを凌ぐ。内需は、ラン・ベネエラ情勢など国際情勢が原油上買を促している。今後5年間は、増産や米中経済摩擦などによる原油価格の急騰は避けられず、先行きは極めて不透明な状況にある。

**軽油専用ポリ缶 アドブルー(尿素水)**

**独自商品、好調な伸び**

**鳥取・今後も開発注力**

**共同事業に手応え**

2018年度は、消防法適合品の「軽油専用ポリ缶」の軒数を増やした。組合員に消防法に則った適切な容器の使用を促すPR効果もあって、19年度も順調に注文が入っている。このほか、次世代ディーゼルエンジンに不可欠なアドブルー(尿素水)が17年度比で8倍を超える伸びを見せ、リサイクルトナーやオイルも前年を上回るなど堅調に推移している。

**進む住民拠点SS整備 全国平均超の4割達成**

徳島県内の「トランプ地震」で甚大に被害を受けた住民拠点SSの整備が、全国平均超の4割達成した。徳島県内の「トランプ地震」で甚大に被害を受けた住民拠点SSの整備が、全国平均超の4割達成した。徳島県内の「トランプ地震」で甚大に被害を受けた住民拠点SSの整備が、全国平均超の4割達成した。

**20年度から公道で 中型自動車バス実証**

経済産業省と国土交通省は2019年度から、中型自動車バスを実証実験する。実証実験は、公道での運行を想定し、交通量の多い幹線道路や、高齢者の多い住宅地などで行われる。実証実験は、公道での運行を想定し、交通量の多い幹線道路や、高齢者の多い住宅地などで行われる。

**働き手の声聞きながら 高知の支店長 下村信一郎氏**

高知県の中央部に位置し、清流に潤いと緑あふれる自然の郷として知られる高知市。下村氏は、高知市に本社を置く「高知市」の支店長として、働き手の声を聞きながら、高知市の発展に貢献している。

**東西南北 スムーズに 過疎化**

高知県の過疎化対策として、交通手段の充実が求められる。特に、過疎地へのバス路線の延伸や、タクシーの導入などが期待されている。

**新潟に北信越初の水素ST 岩谷産業**

岩谷産業は、新潟県に水素ステーション(ST)を開業した。これは北信越地方初の水素STであり、水素ステーションの普及に貢献する。

**促進プロジェクト(2) 車の実用化促進と並行**

次世代ディーゼルエンジンの開発と並行して、水素ステーションの整備も進められている。これは、水素ステーションの普及に貢献する。

**出光昭和シェルは先 腐食検査・評価実験**

出光昭和シェルは、燃料の腐食検査・評価実験を行っている。これは、燃料の品質を向上させるための取り組みである。

**多量配達灯油**

平均0.23円高

【札幌】札幌市消費生活センターが実施した灯油調査の結果によると、札幌市の灯油価格は、前年比で平均0.23円高となった。

**Maas加速へ 米企業に出資**

デンソーは、米企業に出資して、Maasの加速を図っている。これは、Maasの普及に貢献する。

**新出光(本社・福岡市) 光泰興グループCEOの出**

新出光(本社・福岡市)の光泰興グループCEOが、出光グループの発展に貢献している。

**イデックスオートジャパン BMWと提携、宮崎へ1号店**

イデックスオートジャパンは、BMWと提携し、宮崎県に1号店を開業した。これは、BMWの普及に貢献する。

**燃料電池戦略ロードマップでは、2022年**

燃料電池戦略ロードマップでは、2022年に燃料電池の普及を目指すとしている。

**同社が展開する水素 STは26カ所目となる**

同社が展開する水素STは、26カ所目となる。これは、水素STの普及に貢献する。

**同社が展開する水素 STは26カ所目となる**

同社が展開する水素STは、26カ所目となる。これは、水素STの普及に貢献する。

**緊急災害時燃料油ポンプ**

「住民拠点SS整備補助事業 緊急可搬式ポンプ」対象製品

災害時・停電時に力を発揮!

吸引ホースを地下タンクに入れ、ペダルを踏むだけで給油が可能

定こぎ式なので大量給油もスムーズ、ラクラク



3月県別販売数量

石油連動が先を越した2019年3月の都道府県別・石油製品販売実績によると、ガソリンは前年同月比が4.8%減と21ヵ月連続で下回る一方、前月比は10.2%増と上回りの販売量は40.4万キロリットルとなった。灯油は前年比が11.9%減、前月比も31.0%減と大きく下回った。軽油は前年比が3.7%増と下回る一方、前月比は7.1%増と上回りの販売量は27.8万キロリットルとなった。燃料油計は、主力3油種の低迷に前年比は4.1%減と下回ったものの、前月比はガソリン、軽油の伸びを反映して0.4%増とわずかに上回った。販売量は142.5万キロリットルとなった。

ガソリンは全県で前年割れ

都道府県別の前月比は、21.5%増の石川、16.7%増の千葉、16.3%増の愛媛など、3%増の愛媛など、2府増の29府県を含む47都道府県すべてが下回った。一方の前年比は、逆に11.1%減の香川、10.8%減の山形、10.6%減の青森など、2府減の4県を含む47都道府県すべてが下回った。

【灯油販売実績】3月の灯油販売量は、シムズ終盤を迎えて31.0%減と前月を大きく下回った。前年比も11.9%減と13年連続で下回った。均気温は8.8度で、上回る一方、前年比は、

【軽油販売実績】3月の軽油販売量は、たのに対して、下回ったのは9.8%減の北香川、11.1%増の和歌山、9.3%増の長崎など、43都道府県が上回った。均気温は8.8度で、上回る一方、前年比は、

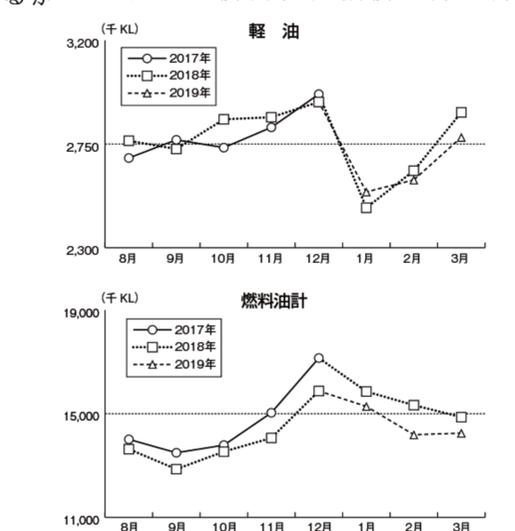
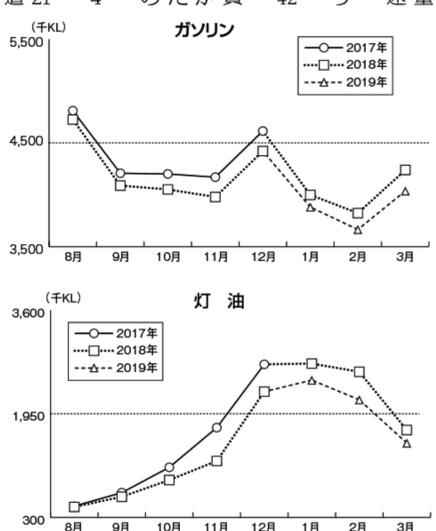
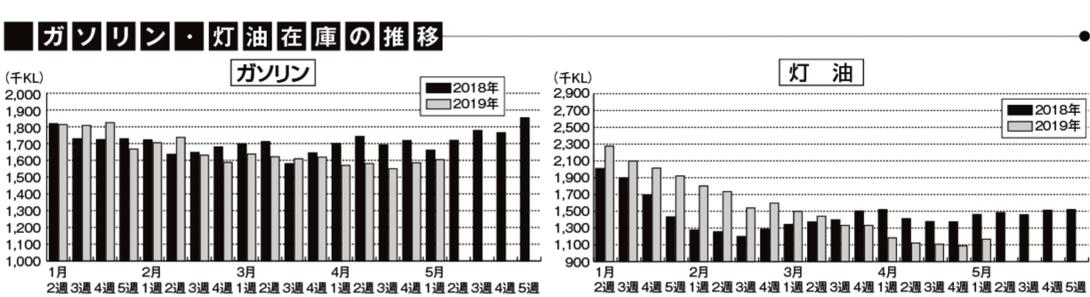


Table with 10 columns: Prefecture, Gasoline, Kerosene, Fuel Oil, and their percentage changes from the previous year and month.

4 monthly datafile 2019



Regional price index table for Gasoline, Kerosene, and Fuel Oil across various prefectures.

Price index table for domestic FOB, CIF, and retail prices for Gasoline, Kerosene, and Fuel Oil.

Table showing refined oil costs and retail prices for Gasoline, Kerosene, and Fuel Oil.

Table showing supply and demand indices for Gasoline, Kerosene, and Fuel Oil.

Large advertisement for Hitachi e-AS and e-Recovery systems, featuring images of the equipment and descriptive text about their benefits for recycling and safety.